

緑の少年団の体験林業を開催しました

令和8年9月26日（土）、秋田緑の少年団（秋田市立桜小学校の学童保育を利用する1～6年生）6名、学童保育指導員等8名とともに、大仙市協和荒川の牛沢又沢国有林で植付の体験林業を行いました。

はじめに立ち寄った大盛館（民俗資料展示館）では、植付箇所の手前にある荒川鉱山跡地のジオラマや、展示されている鉱物に興味。地域の歴史にも触れながら作業現場に到着しました。

ディブル（穴開け器）の使い方とコンテナ苗の植え方を教わり、2.2メートル間隔の目印に合わせて穴を開けます。そこに苗をスッと入れ、根元を折らないように踏みつけます。親指と人差し指で摘んでも抜けなければ合格です。

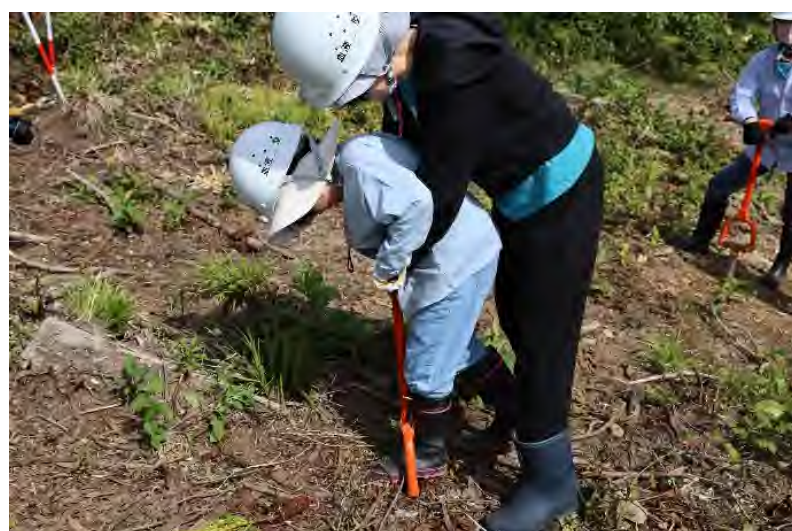
「土が硬くて刺さらない」と指導員の協力を求めたり、開けた穴を見失ったりしていましたが、数本植えた後はスピードも上がり、1時間ほどで81本の植付けを完了しました。

低学年からは「植えるのが大変だった」、高学年からは「大変だったけど楽しかった」との感想が寄せられました。

帰りはナラ枯れ被害対策として設置してある「おとり丸太」を見学し、紅葉時期ではない8月頃から山が赤くなるナラ枯れ被害の仕組みについても勉強するなど、山で過ごす貴重な一日になったと思います。



ディブルの使い方に聞き入る参加者



硬いところでは二人掛かり



開けたはずの穴の搜索(゜Д゜)



穿入穴に恐る恐る爪楊枝を入れてみます。